

科学技術の潮流

(228)

JST研究開発戦略センター

産業構造が変化

1990年代、製薬業界の構造が大きく変化した。収益性の高い生活習慣病治療薬の特許切れが迫り、次世代の治療薬として開発難

易度の高いバイオ医薬品が注目された。研究開発費の増大に対処すべく欧米の製薬企業はM&A（合併・買収）を進め、メガファーマ（巨大製薬会社）が誕生した。2000年以降、欧米ではバイオ医薬品の

した。その結果、11年功することで巨額の利益を生む創薬エコシステムが承認された新規医薬品の約半数をスタートアップ由来品が占めるようになった。

視野を海外へ

スタートアップが次々と誕生した。メガファーマは巨大な資金力を背景に、自社での開発と並行し、有望な医薬品シーズを持つスタートアップを積極的に買収し、一部が成長的に買収し、一部が成

創薬新興強化で業界活性化

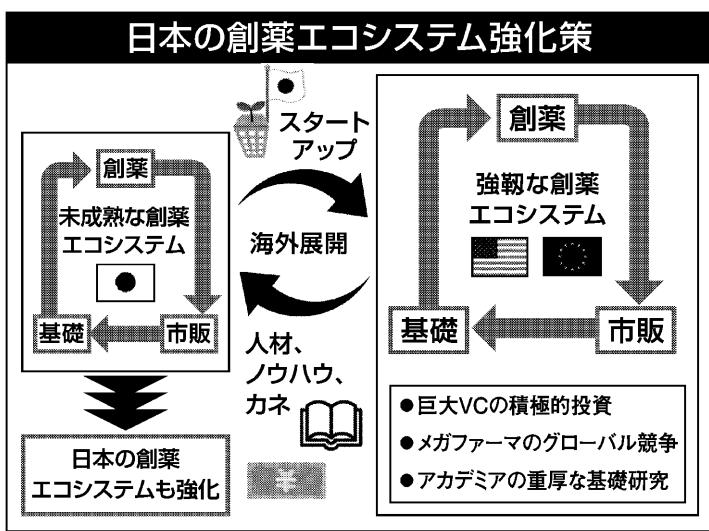


科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センターフェロー(ライフサイエンス・臨床医学ユニット) 船木 美歩

東北大学大学院薬学研究所修士課程修了。医薬品メーカーにてバイオ医薬品の技術開発や薬効評価に取り組み。22年から現職。ライフサイエンスおよびメディカル関連のテーマを対象に調査や分析を実施。

のM&Aや提携を目指す。当該領域を重点化した経営戦略が必要である。欧米のスタートアップは相手を自国内の製薬企業に限定せ

題は、産学官にわたる多様な組織が相互に協働や競争を続けるために必要なスタートアップ人材の育成にある。国内に閉じた人材育成をやめ、創薬エコシステムが確立した欧米で経験を積んだ人材を増やすこと、さらにアントレプレナーシップ教育を強化し、俯瞰的な判断ができる経営思考を持つ人材を育成することが重要だ。



創薬エコシステムの力ギとなるスタートアップの強化は、低迷する国内の製薬産業の再編・活性化に向けた一石を投じるものともな

(金曜日に掲載)